

高等専門学校機関別認証評価 における 自己評価の方法等について (「自己評価実施要項」)

(高等専門学校機関別認証評価に関する説明会)

独立行政法人大学評価・学位授与機構

1

自己評価書の作成

「高等専門学校機関別認証評価」

と

「選択的評価事項に係る評価」

の自己評価書は、それぞれ**別**に作成

自己評価書は公表いたします！

2

自己評価書の構成

I 高等専門学校機関別認証評価

1. 高等専門学校の現況及び特徴
2. 目的
3. 基準ごとの自己評価

II 選択的評価事項に係る評価

選択的評価事項 A 「研究活動の状況」

選択的評価事項 B 「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」

1. 高等専門学校の現況及び特徴(I と同じ)
2. 目的(I と同じ)
3. 事項ごとの目的
4. 事項ごとの自己評価

I 高等専門学校機関別認証評価

1. 高等専門学校の現況及び特徴

- (1) 現況
- ① 高等専門学校名
 - ② 所在地
 - ③ 学科等の構成
 - ④ 学生数及び教員数（実施年度の5月1日現在）

(2) 特徴

高等専門学校の沿革・理念を踏まえ、また、目的の背景となる考え方等も含め、高等専門学校の特徴が表れるように記述（「高等専門学校機関別認証評価」並びに「選択的評価事項に係る評価」ともに共通）

「現況及び特徴」は、評価報告書に原文のまま掲載、公表

「高等専門学校の現況及び特徴」の様式

- 字数、ページ制限：
2,000字（横25文字×縦40行×2段組）以内
1ページに記載
- フォント：
明朝体、大きさは9ポイントを使用

〇〇高等専門学校

【高等専門学校の現況及び特徴】

I 高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

- (1) 高等専門学校名
〇〇高等専門学校
- (2) 所在地
〇〇県〇〇市
- (3) 学科等の構成
学科：〇〇学科, 〇〇学科
専攻科：〇〇専攻
- (4) 学生数及び教員数
(平成〇〇年5月1日現在)

評価実施年度の5月1日現在における学生数及び教員数を記述してください。

なお、(3)学科等の構成と併せて学科・専攻科ごとの学生数及び教員数を表により示すこともできます。

2 特徴

(参考例)

学生数	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	単位:人
〇〇学科						
〇〇学科						
〇〇学科						
〇〇学科						
計						

専攻科数	1学年	2学年	合計
〇〇専攻			
計			

教員数	教授	准教授	講師	助教	助手	単位:人
〇〇学科						
〇〇学科						
〇〇学科						
〇〇学科						
計						

2. 目的

本評価における「目的」とは、高等専門学校の使命、教育研究活動等を実施する上での基本方針、及び、養成しようとする人材像を含めた達成しようとしている基本的な成果等を指します。（認証評価における「目的」は、①狭義の目的、②方針、③達成目標を含む。名称にはこだわらないが3要素とも「目的」に記載が必要。）

「高等専門学校機関別認証評価」並びに「選択的評価事項に係る評価」ともに共通

- 「達成しようとしている基本的な成果」とは、「学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力や養成しようとする人材像等」であり、準学士課程と専攻科課程の違いが明確になっており、その達成状況が検証可能なものであることが必要。
- 現在、周知・公表している「目的」、及びその「目的」から派生する内容も含めて、高等専門学校の個性や特色が評価に活かされるように記載。
- 評価を受ける時点での高等専門学校の掲げる「目的」を記載するが、自己評価等により、時代や社会の要請等から考えて、特に達成目標（準学士課程と専攻科課程の違い等）が不十分であると考える場合には、（前もって）教育の実態にあわせて、改善しておくことが大切。（これが不十分であると、認証評価の他の基準においても自己評価が困難となる。多くの基準は「目的」に照らして評価される！）

◇目的と高等専門学校評価基準の関係

高等専門学校評価基準の内容は、高等専門学校の個性や特色が十分に発揮できるように、高等専門学校が有する目的を踏まえて評価を行うよう配慮

目的の記載に、高等専門学校の個性や特色を表し、基準2以下については目的に照らして自己評価されていれば、



機構が評価を実施するに当たって、目的を踏まえることにより、高等専門学校の個性や特色を評価に反映できる

◇ 「目的」の様式等について

- 適宜、項立て、箇条書きにするなど（評価者に）わかりやすく記載。評価報告書に原文のまま掲載、公表（社会にわかりやすく記載）
- 字数制限：4,000字
（横50文字×縦40行×2ページ）以内
- 明朝体9ポイントを使用

【高等専門学校の目的】

各高等専門学校の使命、教育研究活動等を実施する上での基本方針、及び、養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等について記載してください。適宜、項立てをしたり、箇条書きにするなど分かりやすく記載してください。

学科・専攻科等ごとの目的を記載してください。また、準学士課程・専攻科課程ごとに共通の目的がある場合にも同様に記載してください。

○○高等専門学校

II 目的

1

2

3

〈学科・専攻科等ごとの目的〉

.

.

.

.

-2-

3. 基準ごとの自己評価

◆基準 1～11の自己評価

- (1) 観点ごとの分析
 - ① 観点到係る状況
 - ② 分析結果とその根拠理由
- (2) 優れた点及び改善を要する点
- (3) 基準ごとの自己評価の概要

※自己評価では、基準を満たしているかどうかの判断について記載する必要はない

13

(1) 観点ごとの分析

● 全ての「基本的な観点」について分析

ただし、基本的な観点到「・・・している場合には（・・・されている場合には）」といった条件が付されている観点到、それに該当しない場合には分析の必要はない→「該当なし」と記載。

● 基本的な観点到加えて、高等専門学校の場合や目的に応じて独自の観点的設定が必要な場合には、各基準に对应した独自の観点を適切に設定。

（基本的な観点到により分析できる内容は、基本的な観点到で分析を行うことが必要。）

【Q&A Q81参照】

14

① 観点に係る状況

- 各観点に係る状況について、目的(使命、基本方針、達成目標等)との関連を踏まえた分析内容を記述。

*** 客観的事実を具体的に記述！！**

(観点には、「目的を達成するために」、「目的に照らして」、「目的に応じて」、「目的に沿って」などの条件を付して記載を求めている。それぞれの観点で「目的」のどの要素が要求されているかを読み解いて記載。)

- 高等専門学校全体としての状況の分析。
必要に応じて各学科・専攻科の分析状況を踏まえる。

15

- 各学科・専攻科の状況を示す必要がある場合は、字数制限に留意の上、学科・専攻科ごとの状況に関する記述や資料・データ等を示す。

【Q&A Q13、87、91参照】

- 目的を達成するための具体的な目標や計画を有している場合には、その内容を明らかにした上で分析を行うことにより、評価に目標の達成状況を反映させることが可能。

【 Q&A Q85参照】

16

◇根拠となる資料・データ等に基づいて分析・記述

- 状況に大きな変動等がない限り、基本的には現時点での資料・データで対応可能。
- 各高等専門学校の場合や事項の内容等によっては、より十分な裏付けが得られると判断できる過去の状況まで遡及。
【Q&A Q89参照】
- 既存の資料で十分に対応可能。（自己点検・評価報告書等の必要な箇所の抜き出しや加工したものなどを活用。）

※分析に用いる資料・データ等は、「自己評価実施要項 別紙2（p.21）」の例示を参照し、必要に応じて用いる。

◇根拠となる資料・データ等の記載方法

【Q&A Q102～109参照】

- 根拠となる資料・データ等は、必ず資料編として別添にして提出。
- 特に著作権や個人情報に関わる部分は、塗りつぶすなどの配慮が必要。
- 別添資料編を作成するにあたっては、本編文中に資料番号・別添のページ番号を明記し、別添資料編には、各資料の掲載ページがわかるように目次を付けるほか、基準や観点などのインデックスを付けて、参照しやすいよう工夫する。
- 各資料には、資料番号、データの名称、出典を明記。

- 必要最小限に整理。（自己点検・評価報告書や外部検証（評価）報告書等は必要な箇所の抜き出しや加工したものなど（ただし、表紙や目次ではなく、内容が分かる該当部分））
- 外部に持ち出すことが困難なもの等については、例示として必要最小限の範囲を記載して、残りは訪問調査時の確認資料とする旨を記述。（但し、成績、人事記録、個人情報等公開に適さない資料に限ること。）
- 根拠資料・データの記載方法等に疑問がある場合には大学評価・学位授与機構に相談。

資料2-1-①-0

「資料・データの名称」

資料・データ

(出典・・・p. 〇)

根拠となる資料・データ等は、「本文編」での状況説明等との関係が容易に確認できる資料番号、資料・データ名、出典を必ず明記してください。

② 分析結果とその根拠理由

- 分析結果を当該観点で求めている内容にふさわしい表現を用いて分かりやすく明確に記述。
- 【 Q&A Q90参照】
- 分析結果を導いた理由を「観点到に係る状況」に記載した資料・データ等を摘示しつつ記述。

(2) 「優れた点」及び「改善を要する点」

基準ごとに、観点の分析の中から目的を踏まえて、特に重要と思われる点を、「優れた点」、「改善を要する点」として抽出。

- 「優れた点」：
- ① 高等専門学校の取組状況や達成状況が高い水準にあると判断されるもの。
 - ② 必ずしも成果としては十分達成されていないものの独自の工夫を図った特色ある取組状況であると判断されるもの。
 - ③ その他優れた点として特記すべきであると判断されるもの。

- 「改善を要する点」：
- ① 高等専門学校の取組状況や達成状況が低い水準にあり、改善の努力や工夫が必要であると判断されるもの。
 - ② その他改善を要する点として特記すべきであると判断されるもの。

(3) 「基準ごとの自己評価」の概要

- 基準ごとに、観点の分析内容を整理・総合し、当該基準全体に係る自己評価の概要を記述。
- 評価報告書に原則として原文のまま掲載、公表。
- 当該基準全体に係る自己評価の状況を社会に分かりやすく示すことが目的。

【Q&A Q96、97参照】

◇ 「基準ごとの自己評価」の様式について

(1) 「観点ごとの分析」及び「優れた点及び改善を要する点」

基準1～11：基準ごとに5,000字以内

→ 基準1～11全体で55,000字以内で調整可能

(2) 自己評価の概要

基準1～11：基準ごとに1,000字以内

→ 基準1～11全体で11,000字以内で調整可能

→ 評価報告書に原文のまま掲載、公表

- フォントは明朝体、大きさは10.5ポイントを使用

基準2 教育組織（実施体制）

（1）観点ごとの分析

観点2-1-①： 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点到係る状況）.....
.....（資料編P.〇/資料2-1-①-〇）

（分析結果とその根拠理由）.....

観点2-1-②： 全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点到係る状況）該当なし

目的との関連を踏まえ、取組や活動の内容等について、当該観点的状況が明確になるよう記述してください。

記述に対応した各資料の「資料編」での掲載ページ、資料番号を記載してください。

「・・・の場合」といった条件が付されている基本的な観点到に該当しない場合には分析の必要はなく、「該当なし」と記述してください。

（2）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）.....
（改善を要する点）.....

（3）基準2の自己評価の概要

..... **評価報告書に参考資料として転載します**

-〇-

以下、同様に基準11までの自己評価結果を記述してください。

II 選択的評価事項に係る評価

1. 高等専門学校の特徴

2. 目的

3. 事項ごとの目的

4. 事項ごとの自己評価

高等専門学校機関別
認証評価と同じ

(1) 観点ごとの分析

① 観点到係る状況

② 分析結果とその根拠理由

(2) 優れた点及び改善を要する点

(3) 事項ごとの自己評価の概要

(4) 目的の達成状況の判断

3. 事項ごとの目的

選択的評価事項においては、**高等専門学校が有する目的の達成状況等を評価**することから、当該事項に係る目的については、内容を具体的かつ明確に記載。

◇ 「事項ごとの目的」の様式について

- 字数制限等：2,000字
(横50文字×縦40行) 以内
1ページに記載
- フォントは明朝体、大きさは9ポイントを使用

目的は、評価報告書に原文のまま掲載、公表

【選択的評価事項に係る目的】

〇〇高等専門学校 選択的評価事項A

Ⅲ 選択的評価事項A 「研究活動の状況」

1 選択的評価事項A「研究活動の状況」に係る目的

(1)

(2)

(3)

選択的評価事項に係る目的を具体的かつ明確に記載してください。
適宜、項立てをしたり、箇条書きにするなど分かりやすく記載してください。

選択的評価事項Bを希望する場合には、同様に記述してください。

4. 事項ごとの自己評価

- (1) 観点ごとの分析
 - ① 観点到に係る状況
 - ② 分析結果とその根拠理由
- (2) 優れた点及び改善を要する点
- (3) 自己評価の概要
- (4) 目的の達成状況の判断

高等専門学校機関別
認証評価に係る自己
評価に準ずる

選択的評価事項に係る目的の各項目に照らし、「観点ごとの分析」の結果を総合した上で **4段階で判断**

- 目的の達成状況が**非常に優れている**
- 目的の達成状況が**良好である**
- 目的の達成状況が**おおむね良好である**
- 目的の達成状況が**不十分である**

判断を示す記述	判断の際の考え方
目的の達成状況が非常に優れている	観点ごとの分析において、取組状況や活動状況が非常に優れており、目的に照らして全体の達成状況が非常に優れていると判断される場合
目的の達成状況が良好である	観点ごとの分析において、取組状況や活動状況が優れており、目的に照らして全体の達成状況が良好であると判断される場合
目的の達成状況がおおむね良好である	観点ごとの分析において、取組状況や活動状況に改善すべきところはあるが、目的に照らして全体の達成状況がおおむね良好であると判断される場合
目的の達成状況が不十分である	観点ごとの分析において、取組状況や活動状況に問題があり、目的に照らして全体の達成状況が不十分であると判断される場合

◇ 「事項ごとの自己評価」の様式について

(1) 「観点ごとの分析」及び「優れた点及び改善を要する点」
事項ごとに7,000字以内

(2) 自己評価の概要
事項ごとに1,000字以内

→ 評価報告書に原文のまま掲載、公表

● フォントは明朝体、大きさは10.5ポイントを使用

選択的評価事項の留意点（１）

- 選択的評価事項 A 「研究活動の状況」

研究活動の**目的の各項目**に照らして自己評価。

個々の研究者の持つ研究目的ではなく、機関全体としての研究活動を位置付ける目的を指す。原則、個々の研究の水準評価ではない。

- 選択的評価事項 B

「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」

正規の課程に在籍する学生以外の者に対する教育活動及び学習機会の提供について、この事項の目的に照らして自己評価。

選択的評価事項の留意点（２）

高等専門学校が定めた**目的の達成状況等**を評価することから、**目的の内容（計画）**について、**具体的かつ明確に示す**ことが必要。

目的として列挙された**全ての計画**について評価することに留意し、観点ごとの自己評価も**全ての計画ごと**に行うこと。計画ごとに記載されていない場合には**書き直し**を求められることがあるので特に注意。

自己評価書の提出方法

- 自己評価書「本文編」、「資料編」(両面印刷、表紙の裏面は白紙) 各20部
- 「本文編」の電子媒体(CD-R、DVD-R、USBメモリのいずれか) 各1部
※自己評価書様式はMS-Word版、別添資料は電子媒体不要
「高等専門学校名、高等専門学校機関別認証評価」
「高等専門学校名、選択的評価事項に係る評価」と記入したラベルを貼付
- 別冊資料(学校要覧、学校案内、学生便覧、シラバス、時間割) 各10部
※自己評価書提出時において更新版を作成中の場合は、その時点での最新版を提出の上、更新版は完成次第提出
- 提出締切 平成28年6月30日(木) 必着
- 提出先 独立行政法人大学評価・学位授与機構評価事業部
※配達伝票の品名欄に「高等専門学校機関別認証評価自己評価書在中」と表示

39

評価基本データ(別紙様式)の提出について

公平な分析及び評価を行うため、評価において基本となるデータについて、こちらで作成した別紙様式に基づき、自己評価書とともに提出していただくこととしております。

○別紙様式(紙媒体10部、電子データ1部)

- 1-0a. 高等専門学校現況票【〇〇高等専門学校】
- 1-1a. 平均入学定員充足率計算表【〇〇高等専門学校】
- 1-2a. 担当教員一覧票【〇〇高等専門学校】
- 1-3a. 卒業(修了)者進路実績票【〇〇高等専門学校】
- 1-4a. ウェブサイト掲載項目チェック表【〇〇高等専門学校】
- 2a. 関係法令等適合チェックリスト【〇〇高等専門学校】

※こちらの様式は自己評価書の様式と同様に当機構のウェブサイトにてダウンロードできます。

40

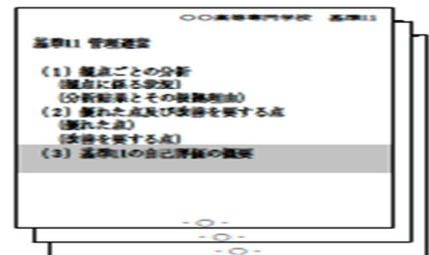
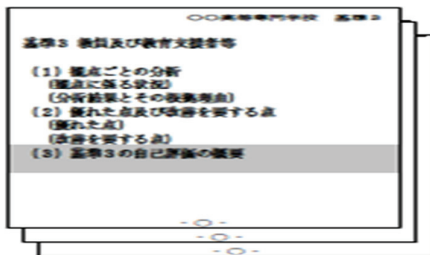
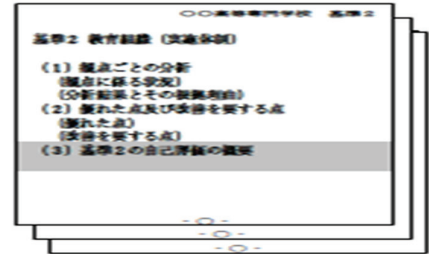
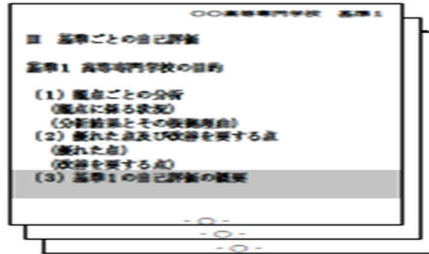
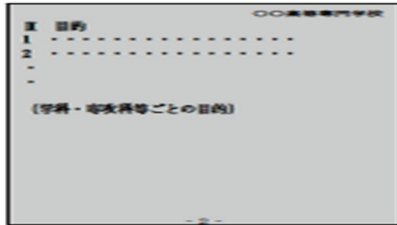
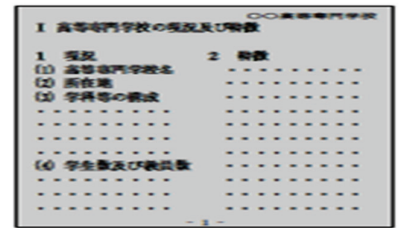
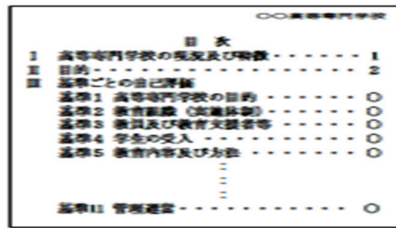
「基準10 財務」に関する分析に必要なデータの提出について

「基準10 財務」に関しまして、分析に必要な資料を自己評価書の別添資料とは別に自己評価書提出時に併せて、ご提出をお願いしております。
(別添資料と重複する場合もお手数ですが、別途提出をお願いします。)

○別表に掲げる資料 (紙媒体10部、電子データ1部)

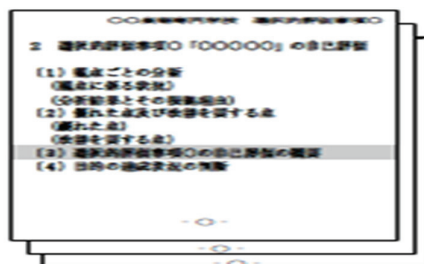
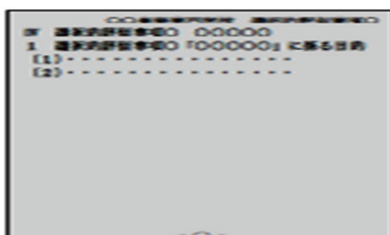
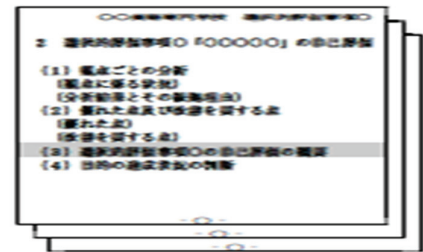
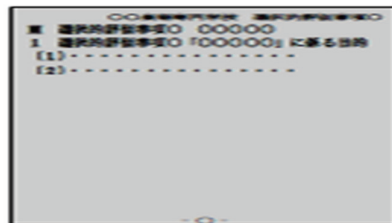
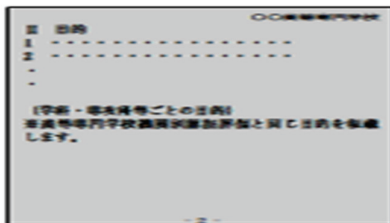
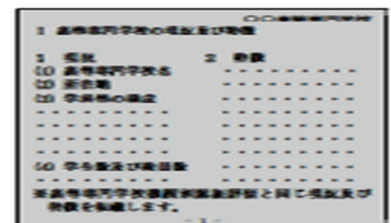
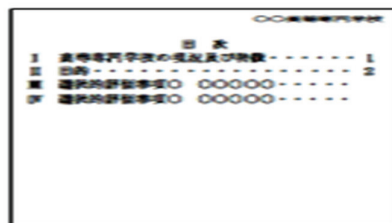
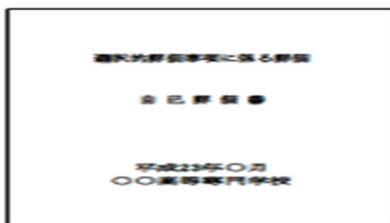
No.	提出資料	備考
1	・過去5年間の貸借対照表	・平成22～26年度分。 ・長期未払金、長期借入金がある場合は、その内容を確認できる資料
2	・過去5年間程度の損益計算書(または資金収支計算書及び消費収支計算書)	・平成22～26年度分。 ・臨時利益又は臨時損失が計上されている場合は、その内容が確認できる資料 ・資金収支計算書・消費収支計算書については内訳表も含む。
3	・過去5年間程度の収入(運営費交付金、授業料、入学料、検定料等)の実績	・平成22～26年度分。 ・産学連携等研究収入、その他補助金等に項目がまとめられている場合は、その詳細がわかる資料
4	・過去5年間程度の収入(科学研究費助成事業、受託研究、共同研究、受託試験、奨学寄附金、同窓会等からの寄付金等の外部の財務資源)の実績及び活用策に関する資料	・平成22～26年度分。 ・実績とともに、外部の財務資源の確保策・活用策として行っていることがあれば、その詳細がわかる資料
5	・予算配分方針、収支に係る方針、計画などの策定状況(手続き、経路、決定機関等)を把握できる資料(教育経費、研究経費、施設設備費それぞれに係るもの) ・予算に関する明示状況を把握できる資料	・予算配分実績(教育経費、研究経費、施設設備費の配分実績) ・校長裁量経費等の戦略的経費を設定している場合は、その資源配分が把握できる資料 ・予算関連規則、議事録の該当箇所等 ・予算配分、収支に係る方針、計画等及びその審議と具体的な策定状況が分かる資料 ・施設・設備の整備計画の全体像が分かる資料(学内全体のマスタープラン等) ・予算の関係者(教職員等)への明示状況を把握できる資料
6	・会計監査の実施状況を把握できる資料	・外部監査、学内監査の監査報告書 ・国立高等専門学校間の相互監査報告書 ・学内会計監査規則(科学研究費助成事業等の外部資金に関する監査規則も含む。)

1. 高等専門学校機関別認証評価



注) は、評価報告書に原則として原文のまま転載します。

2. 選択的評価事項に係る評価



注1) は、評価報告書に原則として原文のまま転載します。
注2) 選択的評価事項に係る評価を希望する場合のみ作成します。

大学評価・学位授与機構のホームページ

<http://www.niad.ac.jp/>



評価事業



認証評価 3 高等専門学校機関別認証評価



高等専門学校機関別認証評価実施大綱等
(のなかに様式ファイルがあります)

スケジュールについて

スケジュールの概要

	大学評価・学位授与機構	対象高等専門学校
H28. 6	評価担当者研修会	← 自己評価書提出
H28. 7	書面調査	
H28. 9	書面調査による分析事項 ⇒ と訪問調査時の確認事項	← 回答書
H28. 10	訪問調査	
H28. 11		
H28. 12		
H28. 12	評価結果(原案)作成	
H29. 1	評価結果(案)決定・通知 ⇒	評価結果(案)検討
H29. 2	申立て内容に対する審議	← 意見の申立て
H29. 3	評価結果決定・公表 ⇒	

47

訪問調査について

48

訪問調査の目的等

- 自己評価書の書面調査では確認できなかった事項等を中心に、対象高等専門学校の状況を調査。
- 対象高等専門学校に書面調査による分析状況の結果を伝え、その状況等に関し、対象高等専門学校との**共通理解を図る**。

訪問調査の内容

1. 学校関係者(責任者)との面談
2. 一般教員、支援スタッフ等との面談
3. 現役学生、卒業(修了)生との面談
4. 教育現場の視察及び学習環境の状況調査
5. 根拠となる資料・データ等の補完的収集
6. 学校関係者(責任者)への訪問調査結果の説明及び意見聴取

◇訪問調査実施までの準備等

1. 訪問調査実施日の決定
2. 訪問調査スケジュールの決定に伴う準備
3. 「書面調査による分析状況」及び「訪問調査時の確認事項」への対応

1. 訪問調査実施日の決定

- 機構事務局から対象高等専門学校に対して9月下旬～11月下旬頃の予定について照会。
- 対象高等専門学校の規模や訪問調査における調査内容の分量等を踏まえ、機構事務局を通じて対象高等専門学校と協議した上で、評価部会が訪問調査実施日を決定。
- 7月下旬までに対象高等専門学校へ通知。

2. 訪問調査スケジュールの決定に伴う準備

- 評価部会は、訪問調査スケジュール及び面談対象者の属性等並びに視察・状況調査を行う授業・実習や施設・設備等を決定し、**訪問調査の4週間前までに**機構事務局を通じて対象高等専門学校へ通知。
- 対象高等専門学校は関係者のスケジュールの調整を行うとともに、面談等の会場、面談対象者の選定など、これらの内容が分かる資料を**訪問調査の1週間前までに**機構事務局へ提出。

53

3. 「書面調査による分析状況」及び「訪問調査時の確認事項」への対応

- 「書面調査による分析状況」及び「訪問調査時の確認事項」を**訪問調査の3週間から4週間前までに**対象高等専門学校へ通知。
(評価部会及び機構教職員の参加者名も併せて通知。)
- 対象高等専門学校は、事実誤認等の意見や「訪問調査時の確認事項」に対する詳細かつ具体的な回答を**訪問調査の1週間前までに**機構事務局へ提出。(回答本編1部、別添資料12部をご提出願います！)

54

おわりに

自己評価は教育研究活動等の個性化や質的充実に向けた高等専門学校の主体的取り組みの一環

- 根拠資料・データに基づく、**客観的な分析**
→ 評価担当者に対するわかりやすさ
- 「対象高等専門学校の現況及び特徴」、「目的」、「自己評価の概要」は、原文のまま評価報告書に掲載、公表
- 評価結果とともに、対象校から提出された自己評価書についても機構のウェブサイトにリンク
→ 社会に対するわかりやすさ

高等専門学校機関別認証評価は

高等専門学校と

大学評価・学位授与機構の

信頼関係のもとでの協同作業です。

本日配付した説明会・研修会の資料は、
後日（8月31日予定）に大学評価・学位授与機構ウェブサイトに掲載されます。

<http://www.niad.ac.jp/index.html>

高等専門学校機関別認証評価についての問い合わせ先

独立行政法人大学評価・学位授与機構 評価事業部評価支援課

TEL : 042-307-1660

FAX : 042-307-1558

E-mail : kousen4@niad.ac.jp